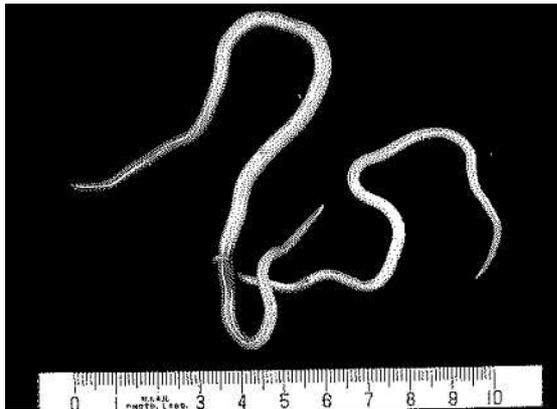


# 豚回虫症の対策をしましょう

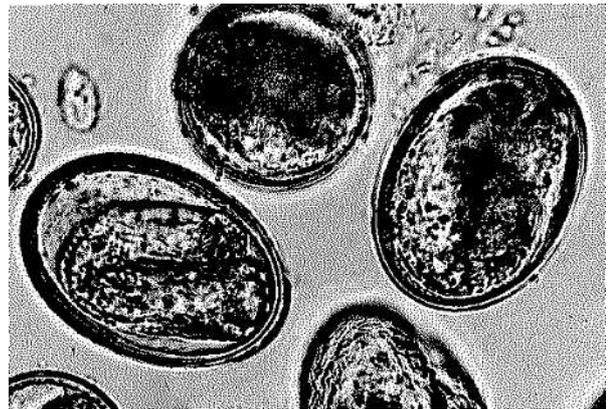
豚回虫症は寄生虫によって起こる疾病で、豚の消化器病、呼吸器病の原因となります。また、肝臓の結節や白斑、炎症等により、と畜場で肝臓が廃棄となるケースが認められます。豚回虫症は臨床的、経済的に直接の被害は少ないものの、豚の健康維持や食品衛生の観点からも対策が望まれます。

## 1 豚回虫症の特徴

- ・糞に排泄された豚回虫卵の経口摂取により感染する
- ・虫卵は乾燥・寒冷・薬剤に対して強い抵抗性を持つが、70℃以上で死滅
- ・成虫が小腸に寄生することにより下痢を発症する
- ・子虫の体内移動により肺炎症状を呈する（主に子豚）
- ・子虫の体内移動により肝臓に白斑（ミルクスポット）を形成する。  
肝機能障害を併発しているため飼料効率が低下する。



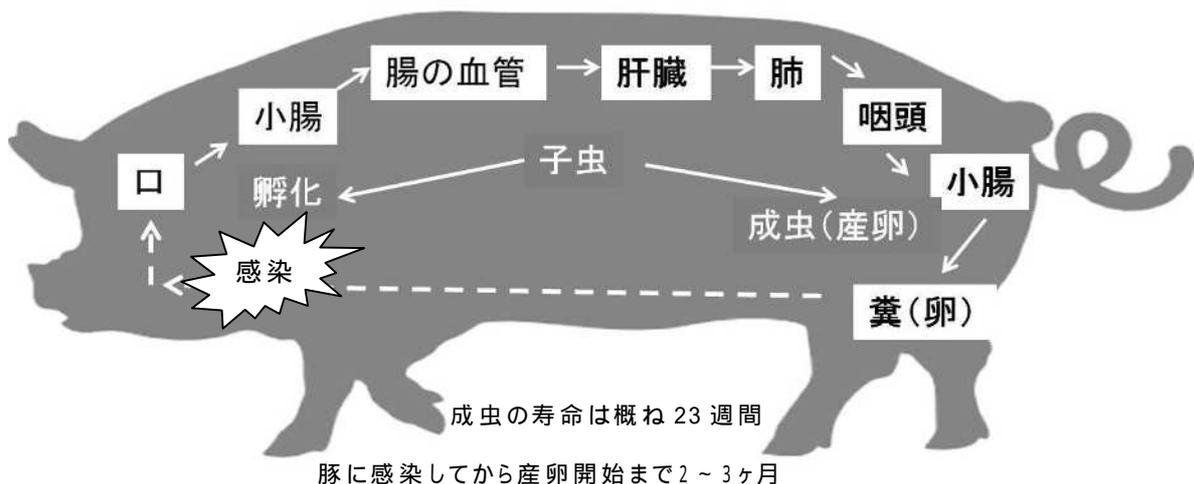
< 豚回虫の成虫 >



< 豚回虫の虫卵 >

写真は家畜臨床寄生虫アトラス(チクサン出版社刊)より抜粋

( 図 豚回虫の体内移動 )



(豚回虫の生活環)

豚に飲み込まれた虫卵は小腸で孵化し、肝臓や肺等の内臓をとおり、肺から再び小腸に達し成虫となります。虫卵が飲み込まれてから、約 60 日後には卵を 1 日 200 万個産むようになります。

2 対策

駆虫

豚回虫は駆虫剤によって容易に駆虫できますが、豚のステージに合わせた薬剤の選択が肝心です。

(豚のステージ別駆虫対策)

| ステージ  | 対 策  |
|-------|--|
| 繁殖豚   | 分娩ストレスにより虫卵を大量に排泄。哺乳豚への感染予防のため、 <u>分娩前に成虫用駆虫剤を投与(年2回)</u>  |
| 導入繁殖豚 | 導入直後と導入1ヶ月後に、成虫用駆虫剤を投与   |
| 子 豚   | 離乳後(10~15kg)は子虫の体内移行中の時期であり、成虫の小腸寄生はまだない。 <u>子虫にも効果のある駆虫剤を投与。</u>                                  |
| 肥育豚   | 肥育中期に小腸で成虫となり、虫卵を排泄し始める。肥育後期は虫卵の排泄が増え、更に肥育豚舎を汚染させる。 <u>肥育豚舎移動直後は子虫にも有効な駆虫剤を投与。肥育後期には成虫用駆除剤を投与。</u> |

(主な駆虫剤)

| 成 分       | 用 法     | 特 徴      | 使用禁止期間 |
|-----------|---------|----------|--------|
| イベルメクチン   | 注 射     | 成虫に有効    | 3 5 日  |
|           | 飼料添加    |          | 7 日    |
| フェンベンダゾール | 飼料添加    | 成虫に有効    | 7 日    |
| フルベンダゾール  | 飼料・飲水添加 | 成虫・子虫に有効 | 1 4 日  |
| 塩酸レバミゾール  | 飼料・飲水添加 | 成虫・子虫に有効 | 5 日    |

獣医臨床寄生虫学(産業動物編)より引用

○駆虫剤は必ず獣医師の指示のもと、用法・用量を守って使用してください。また、使用禁止期間(休薬期間)を遵守してください。

豚舎の衛生管理の徹底(飼養衛生管理基準の遵守)

- ・オールアウト時の豚房の洗浄・消毒を徹底する。  
虫卵は高温には弱いため、スチームクリーナー等が有効
- ・豚房の床や壁の亀裂を埋め、石灰を塗布する。
- ・発酵オガ粉豚舎ではオガ粉の入れ替えや糞尿部分のこまめな入れ替えが必要
- ・長靴の洗浄(靴底を含めブラシを使って糞を洗い落とす)

神奈川県県央家畜保健衛生所

〒243-0417 海老名市本郷3658  
電話:(046)238-9111 ファクシミリ:(046)238-9124

東部出張所

〒226-0015 横浜市緑区三保町2076  
電話:(045)934-2378 ファクシミリ:(045)934-5432

